

6 新潟市西蒲区和納館跡出土木簡

和納館跡は、新潟市西蒲区和納1143番地ほかに所在し、JR越後線岩室駅の東側に位置する。西川右岸の自然堤防上に立地し、遺跡の西約300mを西川が北流している。

平成6年、宅地開発に伴って新潟県教育委員会が試掘調査を行い、翌年に岩室村教育委員会が2,600㎡を本発掘調査した。調査では、二重に巡る堀の一部を確認し、堀の内側からは多数の柱穴や井戸44基などを検出した。多量の中世土器のほか、漆器の椀や皿、貨幣、短刀、曲物・櫛・下駄・舟形などの木製品、砥石、石臼、土錘など、豊富な内容の遺物が出土した。遺物の年代は13世紀後半から16世紀後半の約300年間にわたる。発掘調査報告書は平成9年に刊行された（川上1997）。遺跡地は、現在は宅地や公園になっている。

写真の木簡は、調査区のほぼ中央で検出された井戸SE99から出土した。報告書では「簡素な造りの斎串であろう」として報告されたが（割付No.270、遺物No.1162）、平成23年に赤外線カメラによる再調査を実施したところ墨痕が確認され、木簡であることが判明した。釈文は以下の通りである。

「咄天罡（符籙）□□如律令□」

215×25×3 051型式

上下端、左右側面ともに原状をとどめる完形の呪符木

簡である。上端はゆるやかな山形に整形し、下端部は両側面から削ってやや尖らせている。文字は片面にだけ記され、「咄天罡」「□□如律令」の呪句や、呪い符号（符籙）が書かれている。

「天罡」（＝天罡星）は北斗星を示す道教の神で、治病・消災・延命に効能がある神とされる〔広島県立歴史博物館2000a・2000b〕。呪句の「咄天罡」を記す木簡（「出天罡」を含む）は、県内では、新潟市（旧白根市）小坂居付遺跡〔新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団2012〕、村上市（旧神林村）城田遺跡〔神林村教育委員会・山武考古学研究所2001〕、阿賀野市（旧笹神村）腰廻遺跡〔笹神村教育委員会2002〕で出土している。



「咄天罡（符籙）□□如律令□」

（相澤 央）